

七福神めぐり詣りで 日暮れけり 藤松 遊子

久が原地区 管内	人口	13,494人
	男	14,037人
	女	27,531人
	計	12,629世帯

平成24年12月1日現在

# くがはら

発行：地域力推進  
久が原地区委員会  
編集：地域情報紙「くがはら」委員会  
事務局：大田区久が原特別出張所  
〒146-0085 大田区久が原4-12-10  
TEL (3752) 4271  
FAX (3752) 4514  
題 字：三木 兼吉

新年のごあいさつ

**安全・安心に  
暮らせるまちに**

小原 洪一

平成二十五年の新春を心よりお喜び申し上げます。

東日本大震災による大災害を体験して早くも二年近くが過ぎました。大震災の恐ろしさや復興の難しさを十分に知ったはずですが当時の思いが少しずつ薄れてきているように感じます。被災地の復興が進まないうちに新しくおこる目先のことに左右され、あのと時の気持ちが無くなっているのかもしれない。

昨年久が原の街は大きな事件や事故もなく過ごすことができました。これも日ごろから各自治会を中心として防犯、防災の活動に日夜努力されている結果だと思います。

さらに、昨年十月には久が原銀座商店街振興組合(ライラック通り)と久が原西自治会共同で、池上警察署管内としては初めての防犯カメラの設置がされ、運用が始まりました。事件発生の場合の捜査や犯罪の抑止力に期待します。町の中には一見安全が保

たれているように見えますが空き巣やひったくり、振り込め詐欺といった犯罪は続いています。また自転車による交通事故、特に自転車と歩行者の出会い頭の事故が増えており、高齢者の被害が増加しています。日ごろの啓蒙活動やマナーアップの活動が叫ばれています。

安心・安全に皆が暮らせるまち、子どもたちが健やかに育つまちを目指し、皆様と共になまちづくりに勤めていきます。ご協力をお願いいたします。

所長の健康三講座②

**冬場の下痢・嘔吐  
対策**

関 香穂利

この季節、貝類等を食べた下痢や嘔吐、家族に下痢が広がってしまったというのは、ノロウイルスが原因になっている可能性があります。感染の拡大を防ぐため、役立てていただきたい情報をお伝えします。

①下痢の症状が治まってもウイルスは一週間ほど便に排出されているので、この期間はずは用便後の手洗いを徹底する。

②嘔吐物を処理する時は、ウイルスが空気中に飛散するの

# 迎春 日

本年もよろしくお願致します  
平成25年元旦

成人の日に寄せて

**成人を迎えて**

平堀 琢磨

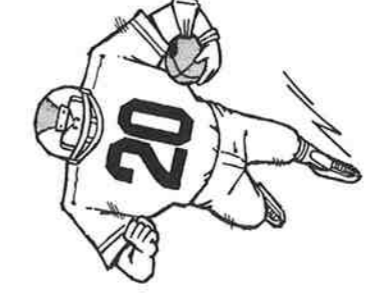


成人を迎え、私が感じたことは二十年間、楽しいことや嬉しいこと、悲しいことや辛いこと、多くのことを経験しましたが早かつたということです。小さい頃、二十歳になったら立派な大人になっていると思い描いていました。その頃思い描いていた立派な大人には今、なれているでしょうか。今まで育ててくれた両親、家族、支えてくれた友人や地域の方々に感謝しています。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災があり、今でも復興に向け多くの方が活動を続けています。この想定外の事態が発生し、もうすぐ二年が経ちます。これまで多くの方が復興のために支援し、現地に足を運び活動をしてきました。それは人と人との絆や協力する気持ちなど一人一人の優しい心があつてのことです。人は助け合い、支え合うことでどんなに大きな困難も乗り越える力を産み出せます。

で、部屋の換気とマスクをする。

③消毒液は、市販の塩素系漂白剤で作る。例として、トイレの拭き掃除用0.02%は漂白剤10ℓに水6ℓ。嘔吐物のふき取り用0.1%は漂白剤100ℓに水6ℓで完成です。



だから家族の絆、友人との絆のような小さな絆の積み重なりが地域の絆となり、さらに大きな絆となると感じました。このように小さな絆の積み重なりが今回のような困難を乗り越える力になります。だからこそ、私達若い世代がよりよい人間関係を育み、よりよい地域、社会を作っていくべきだと考えています。

私は自分の考えを持った芯の強い大人、人を大切にできる大人になりたいです。

成人の日に寄せて

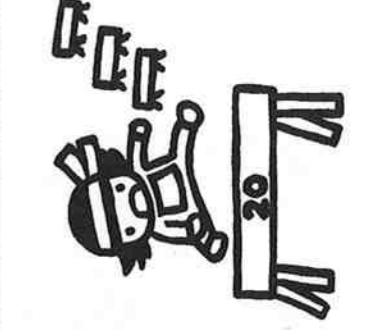
**出会いの中で**

小川 尊子



月日が流れるのは早いもので、気が付けば二十歳という大きな節目を迎えていました。四月二日が私の誕生日なので、成人になる自覚も実感もありません。友だちの誰よりも早くその日を迎えました。

幼いころ、よく転んで怪我して泣いていた自分を思い出します。あまり転ばなくなっただけでドジっぽいところは相変わらずで、正直大人と言えほど成長したのか分かりません。ついこの間中学を卒業し念願の高校生になったと思



本当にそう思います。たった二十年間だけれど、楽しいこともあれば、嫌なこと、辛いこともたくさんありました。そんな中今の私があるのはそのすべての人たちがいるからこそであり、私は本当に幸せだとしみじみ感じさせられます。

社会人への扉を目前にし、先が見えない昨今の世の中とどう向き合えばいいのか。今まで逃げてきた課題に直面している今、周りの人たちにはこれからも支えてもらわなければ私は乗り越えられないかもしれません。しかし、本当の意味で大人になった時、私が出会って関わる人たちに必要とされる、支える側の人材になれるよう成長していければと思います。

つたのに、今ここにいる自分は大学生、それも二年生です。近頃はそんなことを考え驚くばかりです。

思えば、私が過ごしてきたこの二十年はたくさんのいろいろな出会いがありました。もちろんすべてが良いものとは限らないけれど、それらの出会いは私にたくさんのことを学ばせてくれたように思います。何でも相談に乗ってくれる先輩、慕ってくれる後輩、尊敬できる先生、共に泣き、笑い、語りあえる友だちや仲間、いざという時頼りになる兄妹、そしてここまで育ててくれ、どんな時でも支えてくれる父母。人は一人では生きていけないとよく言うけれど

# イベント情報

- 久が原自治会合同新年会  
【日時】1月6日(日) 13:00~  
【場所】久が原特別出張所集会所
- とんど焼き  
【日時】1月14日(月) 10:00~  
【場所】西部八幡神社
- 久が原自治会新年会  
【日時】1月19日(土) 13:00~  
【場所】久が原会館
- 松仙小学校もちつき大会  
【日時】1月20日(日) 10:00~12:00  
【場所】松仙小学校
- 久原小学校くがはら冬まつり  
【日時】1月27日(日) 10:00~12:00  
【場所】久原小学校
- 道々橋自治会初詣  
【日時】2月2日(土)  
【場所】箱根神社
- 青少年対子どもレク大会  
【日時】3月2日(土) 9:30~12:30  
【場所】大森第十中学校

問合せ先 (3752) 4271 久が原特別出張所



東日本大震災の津波により社殿や神輿のすべてを流失した宮城原名取市閑上(ゆりあげ)地区に鎮座する湊(みなと)神社で十月二十一日に例祭が行われました。二年ぶりに復活したおみこし渡行は、久が原から届いた曳太鼓を先頭に各地から集まった四基の子供神輿と大人神輿が連なり、未だ復興が進んでいない建物の基礎だけが残る街並みを「わっしょい」と威勢の良

**がんばれ東北その②**  
**湊神社の例祭に参加**  
久が原西部八幡神社  
氏子青年会会長 **小川 健**

い元気な声で練り歩きました。昼からはボランティアによる縁日が始まり、久が原西部八幡神社氏子青年会は離れた地から復興を願っていることを伝えたく「久原」の神社半纏を着て、総勢十八名で焼きそば五百五十食を奉仕いたしました。

**都立高の防災体験活動**  
**〈続〉もしもの時、私たちに出来ること**  
**防災宿泊体験**  
雲谷高校で実施

当日は久が原駅に朝五時集合、深夜二十四時解散の強行スケジュールでしたが震災に負けない子どもたちの笑顔に元気を戴いた一日でした。閑上の街の復興と心の拠り所である湊神社の再建を心から祈念しております。

東日本大震災の経験を踏まえ意識が高まる中、東京都は防災教育の一環として新たな取り組みを進めています。今年度からすべての都立高校一七九校・約四万人を対象に『宿泊』を伴う防災体験活動を行っています。久が原地区の都立雲谷高等学校では平成二十四年九月二十八日、二十九日に第二学年約二四〇名・定時制生徒四〇

**◆防災役立ちツールの用意を**  
①避難カード(住所、氏名等を記入)、②非常時持ち出し品チェックシート等を準備しておきましょう。

〈おわび〉90号ではトンボの写真の天地を逆に掲載しました。おわびいたします。

普通救命講習では田園調布消防署・地域の消防団・災害ボランティアの方々のご指導・ご協力をいただき、『食』の実習では日本ボイスカウト連盟の方々に教わりながらかまど・火おこし・湯沸かしを体験しました。「新聞紙をゆるくねじった物と固くねじった物とではどちらが燃料を長持ちさせるか。」など身近な物の役立て方や、病気・怪我への対処法、体育館や教室での就寝、保存水を大切に使用するなど、いずれも貴重な体験・学びとなりました。(富田 永美)



名(一部分のみ参加)を対象に実施されました。この取り組みのねらいは「災害発生時にまず自分の命を守り次に身近な人を助け、更に避難所の運営など地域の防災活動に貢献できる自助・共助の心を持った人間を育てること」です。開校式で校長先生より「平時での訓練が有事において活かされ、自分の命を守るのと同時に『援助者』としてリーダーになってほしい。」とお話があり、スタートしました。

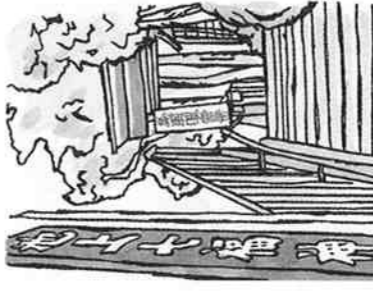
**連載 久が原のゆかり②**  
**馬頭観音教会**  
小原 洪一

池上警察署の裏(北側)、京浜第二国道(国道一号)より一区画東側の道より二十一一段の階段を登った小高い山の上に「馬頭観音教会」があります。池上本門寺の日蓮宗東京都南部宗務所ホームページによりますと、池上七福神の大黒天を祀る観音様として知られており、もともとは小原家の所有地として明治以前から観音堂があり近隣の信仰を集め観音講が組織されていました。当時の言い伝えによりますと享保元年常盤国の郷土の一女が村の紛争を避け、懐妊の身を黒馬の背にゆだね鈴木

**久が原の人シリーズ③④**  
**指で描く**  
**チョークアート**  
湯浅 真輝さん



「チョークアート」と聞いても馴染みのない方が多いかもしれませんが、学校で使うチョークならイメージしやすいでしょう。オーストラリアではクレヨンに似たオイルパステルはチョークと呼ばれて



庄之丞という従者に伴われ、七日間かけてこの丘の麓に着き観音堂に籠もって祈念を凝らすこと数日、霊験あつて村は平穏を取り戻し一女は村に戻つて一子を安産で生まれました。しかし従者と黒馬はこの地に留まりこの丘に骨を埋められましたことから馬の頭の観音様と言われたとのこと。墓碑が池上三丁目十九一七にあります。小原家十五代当主小原義雄は信仰心篤くかねてより親交

おり、それを使って黒板に描くイラストがチョークアートなのです。最近、日本でもお洒落なレストランの店先にメニューボードとして見かけられるようになりました。湯浅真輝さんが、このチョークアートに出会ったのは三年前のこと。当時ゲーム会社のデザイナーだった湯浅さんは、パソコンに向かって仕事をする毎日。「デジタルの仕事で目も疲れ、ふとアナログなことをしてみたくなつたんです」と振り返ります。いろいろネットで検索、手軽に始められそうと飛び込んだのがチョークアートの教室でした。体験教室で簡単なキーキを描いてみると、「発色がきれいで、指を使って描く感覚が新鮮。とても楽しかった!」とのこと。もつと描いてみたくて本格的に勉強、発祥の地であるオーストラリアにも留学、今は創作だけでなく大田文化の森などの教室で生徒さんに教えてもいます。

## 編集後記

新春の言葉とは裏腹に、寒い日が続き、冬も本番です。子どもの頃待ち遠しかったお正月も、あわただしく過ぎてしまい戸惑いを隠しきれません。でも年のはじめ、今年は何も明るい話題がいっぱいありますように。(小倉 敦司)



「指で色をブレンドしていくのですが、筆を使うよりダイレクトに描きたいものが描けません。また新しいアートなので決まり事が少なく、いろいろな可能性があるのも魅力です」。日本での歴史は十年位ですが、ここ数年でメジャーになってきたチョークアート。「もつと多くの人に知ってもらいたいし、自分自身オリジナルな世界観を描いていきたい」と語る湯浅さん。夢は未来に向かって広がっています。(平野 ゆかり)